

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(1ユニット)

事業所番号	2792200269		
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき巽北		
所在地	大阪市生野区巽北4-1-15		
自己評価作成日	平成30年4月25日	評価結果市町村受理日	平成30年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	平成30年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設より2年が経過致しました。去年の7月に管理者の交代があり、ご入居者様、ご家族様には不安な思いをさせてしまったかと思ます。その際、職員の離職も相次ぎ、派遣社員の皆さんに頼らざるを得ない状況になってしまいました。現在、残ってくれた職員と、新しい職員と共に施設を立て直している最中であります。そんな中、以前からいらっしゃるご利用者様には変わらずのご愛好を頂いております。クリスマス会のケーキ、新年会のもちつきは大変喜んで頂きました。また、新しい入居者様も増えました。今年の1月に3ユニット目が開設し、いよいよ残り5部屋です。新規の入居が落ち着けば、入居中の方達にもさらに質のいいサービスを提供できる時間が増えると考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者が昨年7月交代して以来今年3月にも3ユニット目を開設し管理者は新しい職員と共に事業所の立ち直しと質のよいサービスの提供を目指して奮闘している。日常的には利用者の外出支援に力を入れコンビニや近くのスーパーへの買い物、公園(3箇所)へは季節の花見など散歩を兼ねて気軽に出かけている、入浴時間にも個別の支援体制がある。利用者のほとんどが部屋に閉じこもることなくリビングに集まってきては会話やカラオケ、塗り絵、折り紙、編み物など思い思いに楽しんで気分転換している。今後事業所の玄関の空き地に野菜を植えて収穫の喜びを味わう計画がある。開設当初から地域との交流に力を入れてクリスマス会やもちつき大会には地域の方に声掛けして交流している。職員と管理者とは小さなことでも気軽に話せる風通しのよい間柄だと職員が語っていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出退勤時に確認できるよう貼りだしを行っている。また、会議内でも定期的に確認を行い、常に意識できるように努めている。	法人の理念「利用者様にとって第二の家族の様な存在で人生の最終章をみさきで過ごさせて本当に良かったと心から想って頂けるサービスを目指します」の他、行動指針七項目を玄関や事務所に掲示して実践を目指している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を職員、新しい管理者と共に今後の方向性を決める良い機会ととらえて実践に繋げることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と散歩の際挨拶を交わしたり、馴染みの店員さんとは交流している。	開設当初から地域との交流に力を入れて自治会に加入しクリスマスやもちつき大会には地域の人に声掛けして交流している。スーパーの店員さんとも顔馴染みになり挨拶を交わしている。若い人に高齢者のことを知ってもらう良い機会にしたいと保育園との幼老交流を計画中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントで地域の方に来て頂いた際にGHの説明～認知症についての話はするようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様に参加して頂く事もあるものの、町会長はお忙しく参加には至っていない。	偶数月の第三木曜日と決めて会議を行い事業所の実情の報告を行っている。出席者は地域包括センターと管理者、職員にとどまりメンバー構成に拡がりを持たせて双方向の意見交換を持たれたい。	自治会長、民生委員、グループホーム連絡会などにも声掛けして出席者を増やし会議報告書の書式の充実を図ることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告、相談すべき事柄があれば速やかに行い、助言を求めている。	約半数が生活保護の方で多く、市の生活支援課、介護保険課、高齢福祉課に向くことも多く困難事例などの報告相談を行いアドバイスを得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所への貼りだし、定期的な勉強会にてスタッフの理解を深めている。施設内は自由に行き来できるような環境作りに取り組んでおり、玄関においても希望があればすぐに開錠できるようにしている。新たに委員会を設置予定。	身体拘束、虐待、感染症の委員会を立ち上げて定期的に研修を行い職員は身体拘束の禁止となる具体的な行為を正しく理解するべく努めている。現在家族からの希望でセンサーマットの利用者が四名いる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は本部での研修を定期的に受け、スタッフへも定期的な勉強会にて理解を深めている。また、見過ごすことのないよう管理者はもちろん本部も定期的に巡回をしている。新たに委員会を設置予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用されている方もおり入居前より研修を実施している。また新入職なども増えている為、今年度も実施予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者以外にも1名同席し、十分な説明を行っている。退去も納得頂いた上での退去となっており、トラブルには至っていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者へは担当やCM、管理者が定期的に要望や意見などの確認を行い、ケアプランに反映させるようにしている。家族へは意見箱の設置するとともに、言いやすい関係性を構築できるよう努めている。	職員は担当制をとっており、季節の衣替え居室の掃除、お便りでの近況報告、お誕生日には手作りカード、ケーキ作りなど生活全般にわたって支援している。家族からは食事内容の変更を求められ、栄養士と相談して食事の形態を見直した利用者が1名ある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部へは定期的な会議の場で管理者より発言できる機会があり、施設内では毎月の勉強会で発言できる場を設けると同時に日常のなかでも風通しの良い職場であるよう心掛けている。	会議や勉強会で出てきた職員からの要望(利用者の情報、物品購入、業務の流れなど)を管理者は毎月の法人の管理者会議で発信して改善された事例もある。個別面談もあり職員からの些細な意見なども聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの実績や状況においては、管理者より本部に定期的に報告しており、査定評価などに反映できるように行っている。管理者においては、本部より定期的に話をする場を設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では、毎月勉強会を実施している。また、管理者は本部での勉強会に参加している。また、外部講師による研修会などもあり、知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地区の地域密着連絡会だけでなく、他区の交流会や勉強会にも積極的に参加している。また、スタッフは地域の勉強会には順次参加し、他区に関しても案内は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者・CMはアセスメントをしっかりと行うよう努めている。入居後も管理者・CMだけでなくスタッフも話ができるよう努めると同時に、発言などは詳細に記録し、共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者は家族から詳細に聴き取ることに努め、入居後も定期的な報告を行い、より良い関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入前に十分な聴き取りを行っており、必要としているサービスだけでなく、福祉用具等他サービスの対応も導入時点で実施できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○○してあげる、というような考えのスタッフはおらず、良い関係が築けていると感じている。利用者様は「ありがとう」と言ってくくださるが、こちらも「ありがとう」である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者やCMを中心に家族とも密に連携をとっており、関係性ができていると感じるご家族様もいれば、そうではないご家族様もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地区の方々が多い為、定期的に外出がてら車で近隣までお連れし、散歩など行っている。また馴染みの散髪なども希望があればお連れし、これまでの関係性が途切れないよう支援している。	以前の近所の友人、知人の方がたびたび訪問されたり定期的に今まで住んでいた家の点検に車でお連れする利用者、お墓参りや病院受診の帰りに家族と外食される方などこれまでの関係が途切れないような支援体制がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもりがちなる方もおられず、入居者同士でご飯の誘いに行くような関係性ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去になった方がお一人いるが、担当CMにこれまでの様子を伝え、引継ぎができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	CM・居室担当を中心に希望や要望などを伺えるような関係性作りに注力し、把握できるよう努めている。また訴えが困難な方には家族やこれまでの生活歴などを参考に入居者本位の支援ができるよう努めている。	家族の希望で入居された方が多く帰宅願望の強い方には居室担当職員が本人の思いや暮らし方、生活歴など本人を思いやって聞き出す努力をしたり、家族からも聞き出して本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に十分な聴き取りを行うと同時に、入居後も本人はもちろん、家族や馴染みの方々に教えて頂き、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を詳細に残し、スタッフ全員が共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のなかで本人、家族への聴き取りはもちろんプラン作成の際には担当者会議を実施し、それぞれの意見を取り入れるよう努めている。	アセスメントやモニタリング、申し送りノートなどを参考に1カ月毎に担当者会議を行い、本人、家族からの意見を取り入れて短期には6カ月毎に介護計画の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りなどを利用し、共有を行っている。また、定期的にモニタリングを実施しプランの見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、本人や家族と話し必要なサービスがあれば提案し利用できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在でも近隣にお住まいだった方から面会や連絡があることも多く、継続して関わりを持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続してかかりつけ医に診て頂けるよう支援しており、現在も往診・通院ともに本人や家族の希望を優先している。	従来のかかりつけ医を希望する利用者には本人や家族の意向に沿った受診の支援体制がある。事業所の協力医院を利用の人は内科が月2回の往診を受けている。歯科(週1回)の往診は希望者が受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護にて、報告できるようケース記録や申し送りを活用している。また、気になる変化においては24時間体制で連携をとり相談できるシステムにある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には付き添い、可能な限りムンテラにも参加させて頂き、早期の退院に向けて調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明を行っており、現在、看取りの方はいないものすでに希望されている方もおり、医療とも連携がとれるよう密に報連相を実施している。	入所時に看取り介護実施内容を明記した“重度化した場合の対応に係る指針”文書で同意書を交わしている。身体状況変化時に本人・家族の意向を確認し看取り介護の同意書を得る体制と方針を明確にしている。看取り例は現在は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会で取り入れているだけでなく、新入職があればその都度緊急時の対応を指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、スタッフが毎日確認できる場所に避難場所を掲示している。	消防署指導の火災訓練を含め、年2回の訓練を実施している。自動火災通報装置・緊急連絡網を整備しているが非常用備蓄品については検討中である。地域との交流を構築中で、協力体制が課題となっている。	1～3階の居住空間と、あらゆる災害を考慮した避難経路・誘導・方法を事業所全体で日頃から話し合い、それを基にした訓練の繰り返しや備蓄品の整備と、地域との協力体制の構築を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇や人権擁護の勉強会を実施するとともに、スタッフ同士でも注意できるような関係性を築けるよう努めている。	利用者に対しての言葉遣いは常に敬語を使用するよう徹底している。本人の気持ちを大切に声掛けや対応に配慮しながら取り組んでいる。入浴・排泄時や居室の出入りはプライバシーに留意し、人格を損ねないケアを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択して頂けるような声かけを行うよう努めている。また、傾聴できる時間を設け気持ちを伝えやすい環境作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を遅らせたり、お風呂の時間をずらしたり、可能な限りご利用者様の希望を聞いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時や入浴前には、本人と洋服を選ぶようにしている。またお出かけ前には洗面に立ち、身だしなみを整え、意識できる環境作りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理のできる方は調理を、できない方にはメニューを記入してもらったり、後片付けを手伝ってもらっている。	献立・食材は配食業者に依頼し、調理職員が交代で行っている。おやつに好みを取り入れて月1回はお楽しみメニューで、副食を一品増やしたり、内容を豊かにしている。咀嚼や嚥下状態により刻み・ミキサー食にして食べる意欲の向上に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量はその都度記録を行い、増減などがあれば主治医にすぐに報告するようにしている。また、栄養バランスにおいては定期的に管理栄養士に確認してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、週に1度歯科往時にはケア時のアドバイスを専門家より頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導だけでなく、その方にあったペースで排泄介助を行っており、入居後オムツやリハパンを着用されない方も多い。	オムツ使用者が3名で他は布パンツ、パット・リハパン併用で、日中はトイレで全員が排泄をしている。パターンの把握と事前の声かけで排泄のレベルが上がった人もいる。夜間のオムツ交換は睡眠を優先し個々に合った対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬でのコントロールだけに頼らず、水分摂取に努め、また腹部マッサージなどを実施し自然排便ができるよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番は決まっておらず、時間をずらしたり曜日を変更したり臨機応変に対応している。	週2回の午前が基本となっているが、生活習慣や希望に応え、曜日・時間帯の変更をして入浴支援を行なっている。入浴拒否の人には雰囲気づくりと職員交代などで対応し清潔保持に努めている。季節のゆず湯・入浴剤で変化を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムや体調に応じた睡眠・休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報はスタッフがすぐに見れる場所に保管しており、確認できるようにしている。また変更があった場合は共有できるように申し送りを実施し、情報も保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室担当やCMが中心となり、本人の楽しみ・やりがいを探り、ハリのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日課になっており、外の空気を感じ気分転換ができるように努めている。また、車などを利用し本人の希望の場所へ出かけることもある。	ホーム周辺の公園(3ヵ所)の散歩へ日常的に出かけている。季節の花見(桜・つつじ)も近隣の公園で楽しんでいる。個々の要望で以前の住居や買い物・馴染みの理容院へ車で出かけ、行きたい場所への支援を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度ではあるが所持している方もおり、買い物際には支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応できるようにしており、家族への理解も得ている。実際に定期的に電話をかけたリ、ハガキを出している方も多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気や空調は季節に応じたものができている。	リビング兼食堂は採光・通風も良く、カレンダーや手作りの季節の飾りつけで居心地よい場を整えている。各ユニット前の廊下に行事写真が飾られ、日々の生活ぶりが感じ取れる。トイレ・浴室・廊下の共有部分は清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはもちろん、施設内は自由に行き来できる環境である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時などに十分に説明を行っており、居室には思い出の品や使い慣れたものを持ち込んで頂けるようお願いしているが、現状は劣化などで使えないものが多く、家具などの持ち込みは少ない。写真などは持参されている。	ベッド・エアコン・クローゼット・カーテンは設置されていて、テレビ・小物・タンス等の馴染みの物の持込は、人によって量の多少はあるが夫々の今迄の生活の継続になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや入浴の際の位置など、本人の力を十分に発揮できる場所で統一した支援ができるよう努めている。		